

障がいがある人

桃山学院中学校 1年

早川 倫子

わたしは中学生になったばかりで、電車で通学しています。駅では小学生のころは見かけたことのない人たちがいっぱいいました。その人たちは白い杖を持って点字ブロックの上を歩いたり、車いすに乗って駅員さんが電車のドアの前に用意した折りたためるスロープを下りたりしていました。わたしはそれを見て障がいがある人たちに興味を持ちました。それで、わたしは障がいの種類を知ろうと思いました。いっぱいありましたが、肢体不自由と精神障がい特に気になりました。

肢体不自由とは、体に不自由な部分がある障がいのことです。先ほど例に出した車いすに乗っている人も肢体不自由だと分かります。精神障がいは精神機能の障がいです。幻覚を見たり、何かにとっても不安になったりします。わたしが小学生だった時、同級生に一人、精神障がいだった人がいました。面白い人だなと思っていました。その人には必ず先生が共にいました。わたしは、何とも思っていないんですけど、お母さんに教えてもらい、初めて知りました。

障がい者はたくさんいますが、わたしはその人たちは快適に生活できているのか気になりました。最近ではバリアフリーというものがありますが、わたしはその満足度を調べることにしました。

障がい者の人たちは満足している人たちが大半でしたが、まだ不満がある人たちもいました。わたしはその人たちも満足にできる工夫をするのが課題だと思います。一部の人々が不満だと、不公平です。みんなで暮らしやすい街を造れば障がい者関係なく、幸せでいられるとわたしは思います。

このように、利用者が多い公共の場所ではエレベーター、手すり、点字ブロックなどがあったり、テレビのニュースでも手話を見ることもあります。健常者だけでなく、様々な事情がある人もいると理解し、改善すべき所を直せば、もっと豊かになっていけると思います。